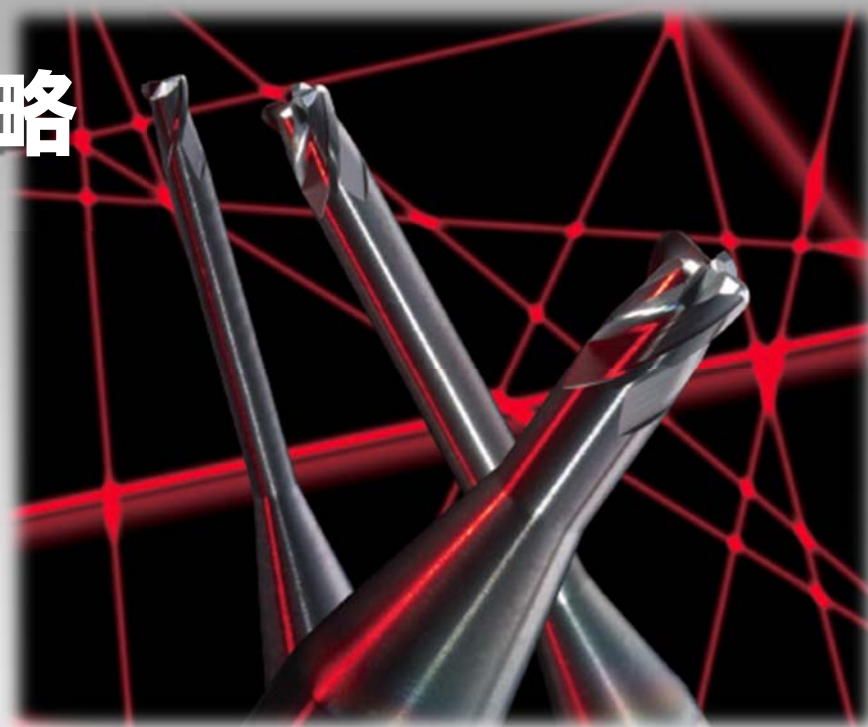


2016年3月期 決算概要と経営戦略



NS 日進工具株式会社

～超硬小径エンドミルのトップランナー～

2016年5月13日
(証券コード6157)

目次

1. 2016年3月期の業績について	• エグゼクティブサマリー	P.3
	• 2016年3月期の重要なトピックス	P.5
	• 売上、売上総利益、販管費、経常利益 推移	P.6
	• P/L B/Sサマリー	P.12
2. 2017年3月期の業績見通し	• 業績見通し	P.15
	• 2017年3月期の重点戦略	P.16
	• 設備投資と減価償却費のトレンド	P.17
	• 配当について	P.18
3. 日進工具について	• 日進工具の特長 (利益率、ROE、資産効率、財務基盤)	P.20
	• 日進工具3つの強み	P.25
	• 当社製品の用途と主な需要業種	P.26
4. 参考資料	• 企業概要	P.28
	• エンドミルとは	P.30
	• 超硬小径エンドミル市場の概況	P.31
	• 生産・開発拠点	P.32
	• グループ会社の概要	P.33
	• 技術力・開発力	P.34
	• 株価推移とバリュエーション	P.35
• IR情報サイトのご案内	P.36	



1. 2016年3月期の業績について

エグゼクティブサマリー

増収増益、経常利益率は23.3%

(百万円)

	通期予想 (2016年1月29日)	2016年3月期 通期実績	予想対比
売上高	8,010 (+8.2%)	8,382 (+13.2%)	< +4.6% >
営業利益	1,870 (+26.3%)	1,914 (+29.3%)	< +2.4% >
経常利益	1,910 (+24.5%)	1,954 (+27.4%)	< +2.3% >
当期純利益	1,260 (+29.4%)	1,342 (+37.9%)	< +6.6% >

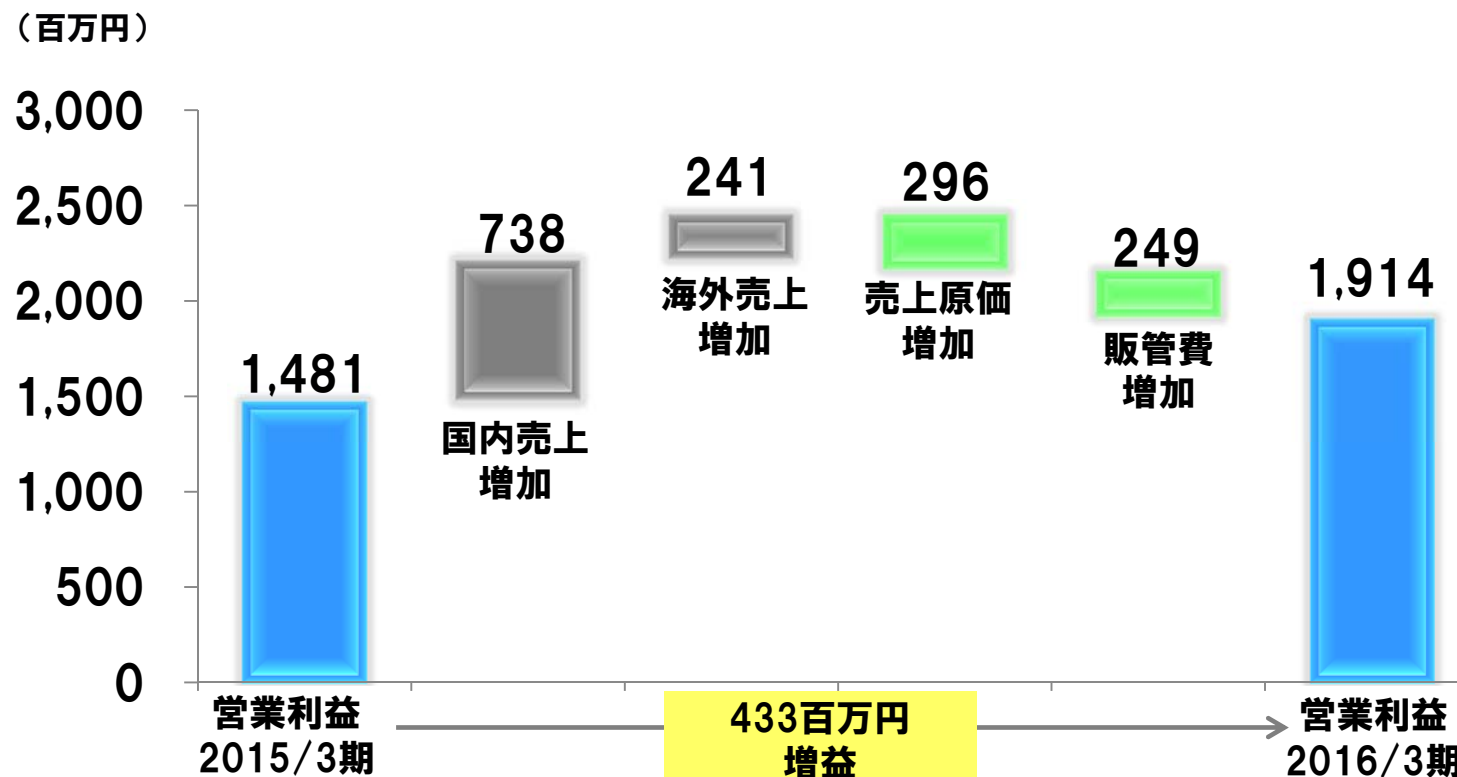
※()内は前期比増減率

- 日本の景気は、円安や原油価格の低下による企業収益の回復、また米国を中心とした海外経済の緩やかな成長に支えられ、堅調に推移したものの、12月以降は円高・株安から不透明感が広がった。
- 自動車関連とスマートフォン関連を中心に小径エンドミルの需要は堅調に推移、4Qはやや弱含んだものの売上高は前期比+13.2%を確保。
- 高い設備稼働率やCBN製品の増加等から、売上総利益率が52.4%と前期比2.3ポイント上昇したほか、販管費比率も29.5%と0.6ポイント低下。
- 経常利益は前期比27.4%増の1,954百万円、売上高経常利益率は23.3%と2.6ポイント改善。

営業利益の増減要因

売上増による増産効果等から営業利益は29.3%アップ

営業利益率も20.0% ⇒ 22.8%へ向上



2016年3月期の重要なトピックス

1. 前期に続き連結売上高・利益ともに過去最高を更新

- 売上高は3期連続、利益も2期連続で過去最高を更新

2. 売上高経常利益率も8期ぶりの過去最高水準

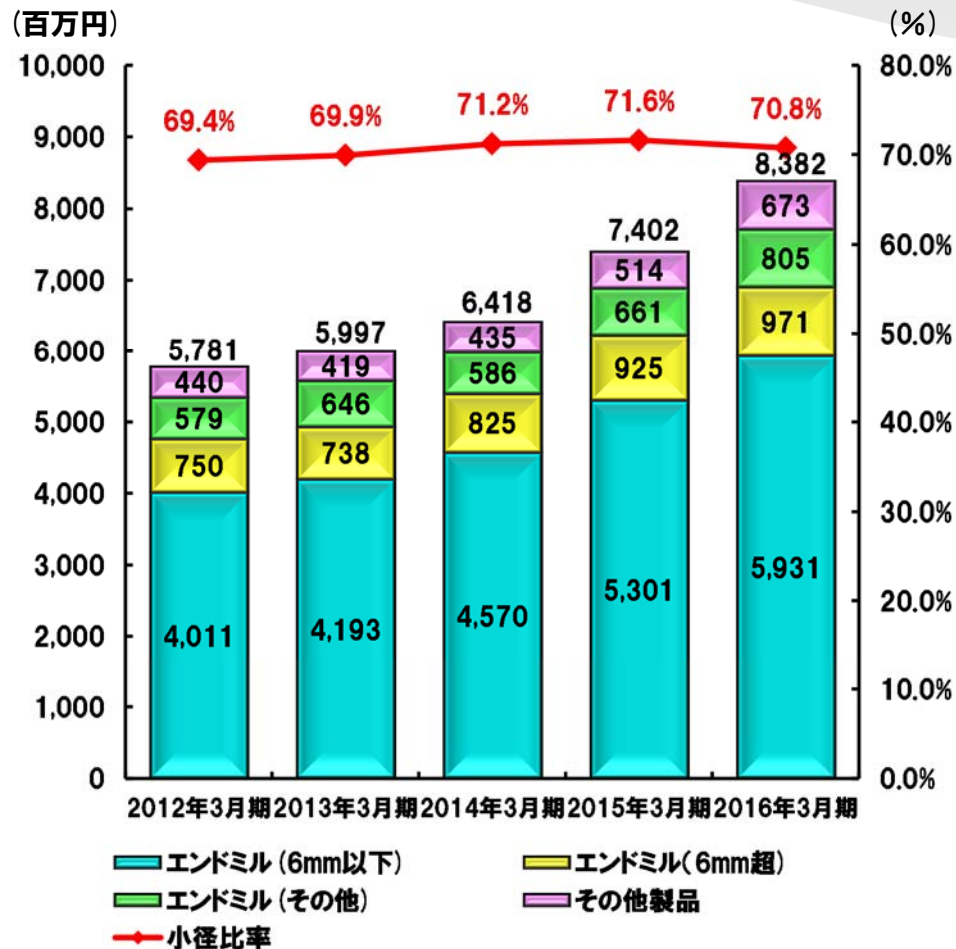
- 2008年3月期の21.6%を上回る23.3%

3. 3月に新工場棟が完成

- 積極的な設備導入もあって期初に比べ生産能力が約20%アップ

売上高の推移① 製品別

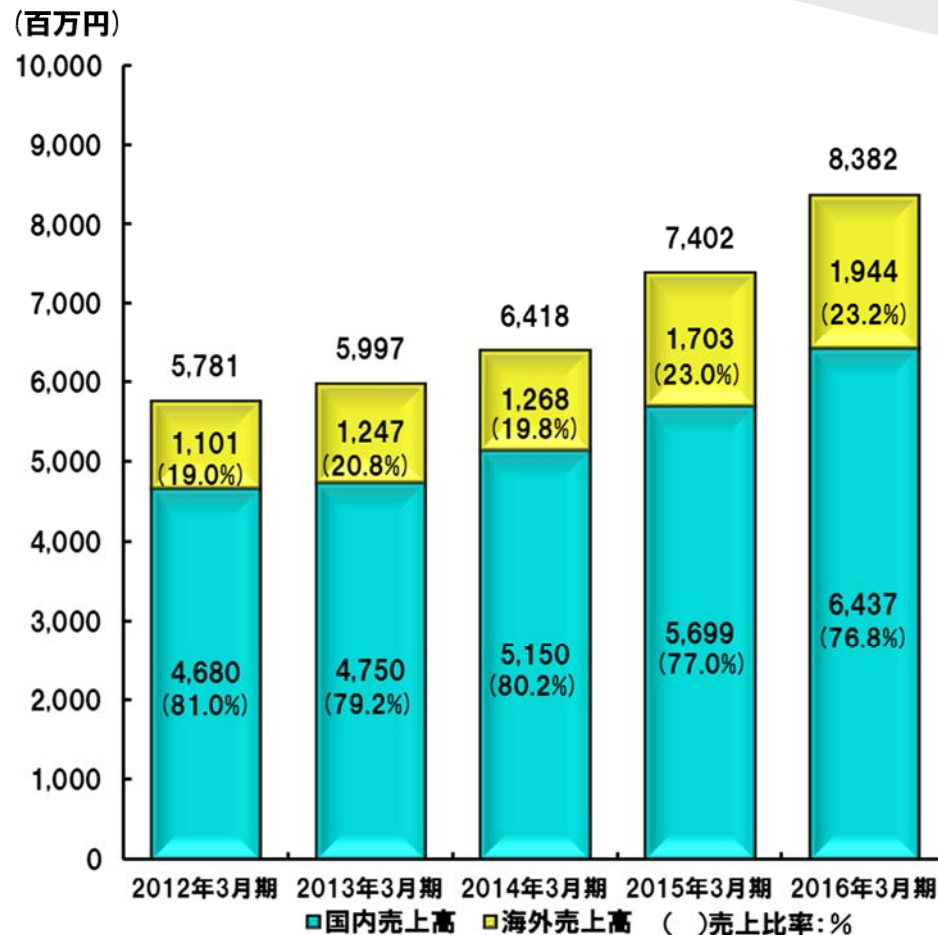
製品別売上高と小径比率の推移



- 連結売上高は前期比13.2%増の8,382百万円となり、初の80億円台乗せとなった。
- 主力のエンドミル(6mm以下)は同11.9%増えたが、プラスチックケース等のその他製品が30.9%増、特殊品等のエンドミル(その他)が21.9%増と大きく伸びた。その一方、エンドミル(6mm超)は、製造面の制約もあり4.9%増に止まった。
- この結果、小径比率は70.8%となり0.8ポイント低下した。

売上高の推移② 国内・海外

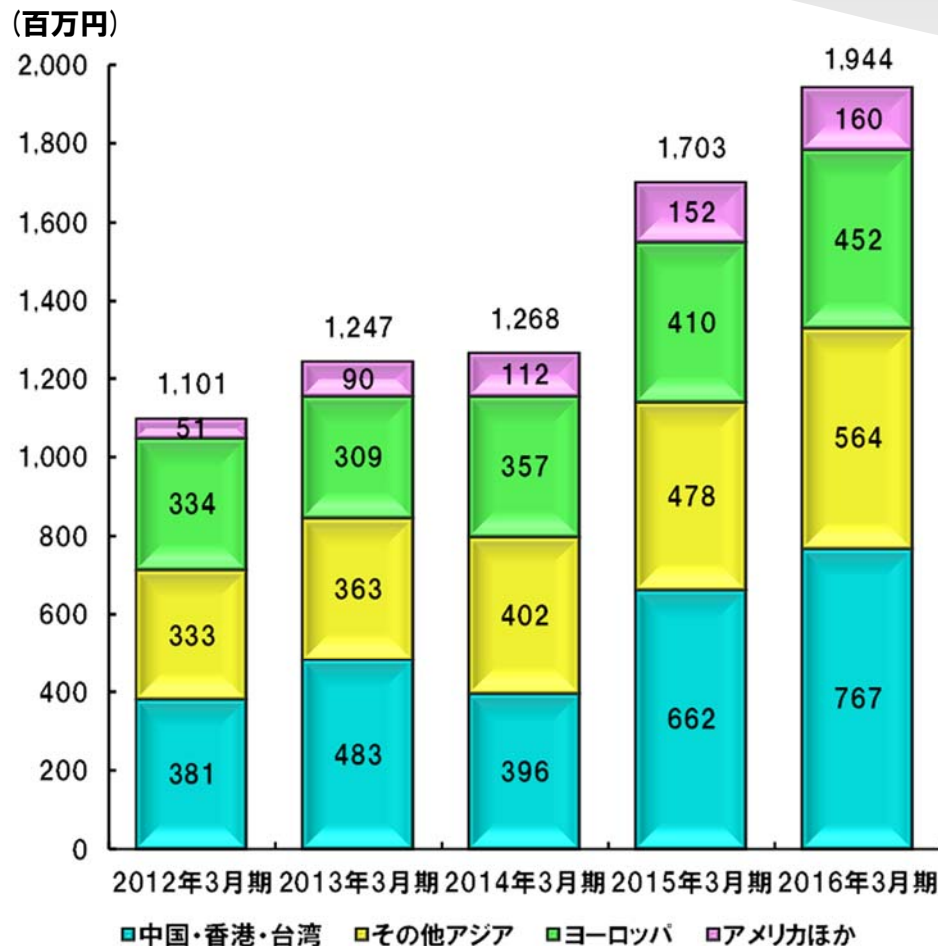
国内・海外売上高の推移



- 自動車や電子部品に関連する需要に牽引され、国内売上高は前期比12.9%増の6,437百万円。
- 海外では、中国向けの勢いが弱まったものの、その他アジアやヨーロッパ向けが計画を上回り、前期比14.2%増の1,944百万円。
- これにより海外売上高比率は同0.2ポイント上昇の23.2%となり、前期とほぼ同水準であった。

売上高の推移③ 海外地域別

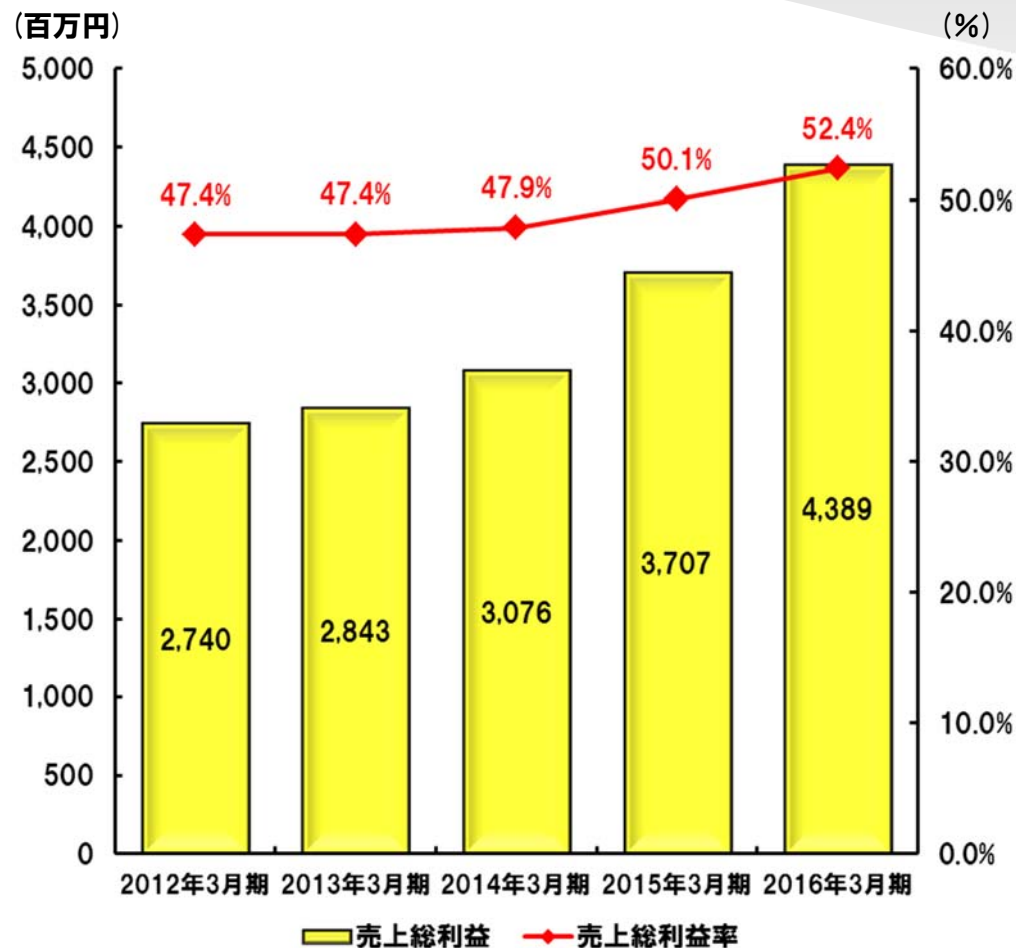
海外地域別売上高



- 中国・香港・台湾向けは引き続きスマートフォン関連が中心。高機能機種の新モデル向けで活況となった。発売直後の勢いが続かず年明け後は減産となったものの、同地域向け売上高は前期比15.9%増の767百万円。
- その他アジアでは、最も市場の大きいタイが、政治混乱が影響した前期から持ち直す動きとなったことで、前期比18.1%増の564百万円と拡大。
- ヨーロッパでは、緩やかな回復が続くがテロの影響等もあり回復テンポは鈍化傾向、それでも452百万円と前期比10.2%増加した。

売上総利益の推移

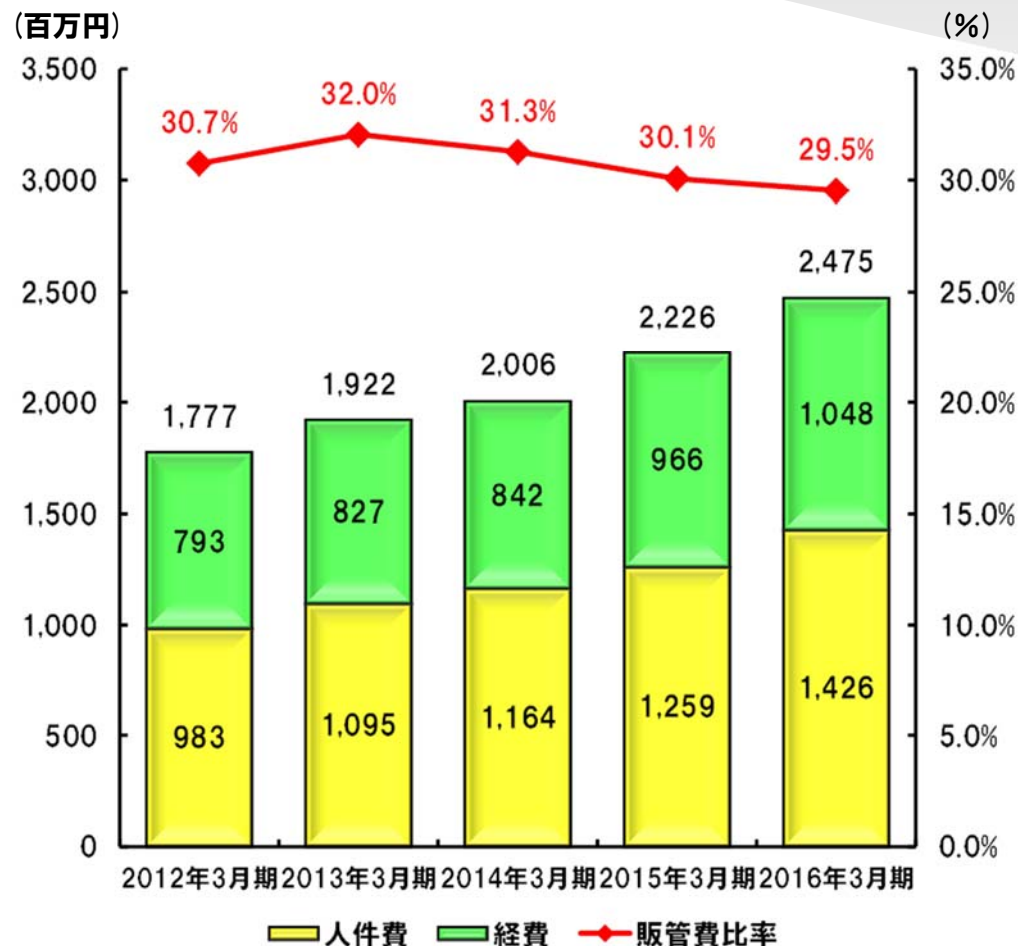
売上総利益と売上総利益率の推移



- 増産により原材料費や外注加工費が上昇したものの、減価償却費をはじめとした製造経費が前期比0.1%の増加に抑えられたほか、技術部門の人員が生産部から開発部に移ったことにより労務費もやや減少。この結果売上原価は同8.0%増に抑えられた。
- 売上総利益は前期比18.4%増の4,389百万円、売上総利益率は同2.3ポイントアップの52.4%。

販管費の推移

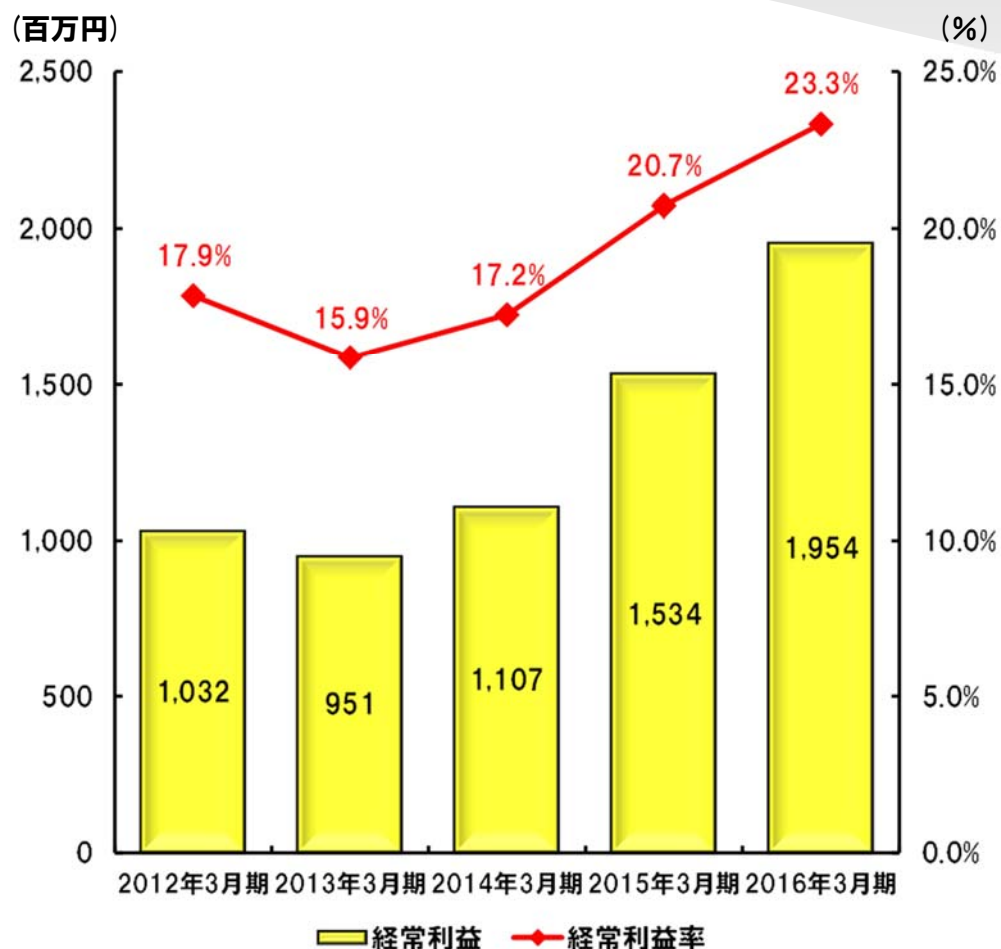
販管費と販管費比率の推移



- 販管費は前期比11.2%増加の2,475百万円。
- 技術部門の人員が製造から開発へ移ったことに伴う給与の増加に加え、増益により賞与の利益連動部分も増加したこと等から、人件費は前期比13.2%の増加。
- 一般経費では、販売・会計システム更新により減価償却費が37.5%増加したこと等から同8.6%増加。
- 売上高の増加に比べ抑えられたため、販管費比率は29.5%と0.6ポイント低下。

経常利益の推移

経常利益と売上高経常利益率の推移



- 経常利益は増収を主因に、前期比27.4%増の1,954百万円、2期連続で過去最高益を更新した。
- 売上高経常利益率は前期比2.6ポイント上昇し23.3%。経常利益率も2008年3月期の21.6%を8期ぶりに更新。

損益計算書サマリー

(百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	前期比	コメント
売上高	7,402	8,382	+13.2%	自動車や電子部品に関連する需要に牽引され拡大。
売上総利益 (率)	3,707 (50.1%)	4,389 (52.4%)	+18.4%	増産による設備稼働率の向上等により売上高を上回る伸びとなった。
販管費 (率)	2,226 (30.1%)	2,475 (29.5%)	+11.2%	減価償却費（販売・会計システム）と人件費の増加を主に増えたが、売上高販管費比率は若干低下した。
営業利益 (率)	1,481 (20.0%)	1,914 (22.8%)	+29.3%	売上総利益率の向上と販管費比率の低下の両面から営業利益率がアップ。
経常利益 (率)	1,534 (20.7%)	1,954 (23.3%)	+27.4%	前期にあった設備導入に係る補助金が当期は無いため、営業外収益が若干減少した。
当期純利益 (率)	973 (13.1%)	1,342 (16.0%)	+37.9%	法人税率の低下と税額控除の増加等もあり、経常利益を上回る伸びとなった。
設備投資額	612	1,295	+111.6%	新工場棟の建設と機械設備の導入強化等により大幅アップ。
減価償却費	474	505	+6.4%	販売・会計システムの更新関連が増加要因、新工場棟は3月完成のため当期への影響は軽微。
従業員数	281人	280人	-0.4%	営業人員の強化を図ったが全体としては横ばい。

※()は売上高に対する比率

貸借対照表サマリー

(百万円)

	2015年 3月期	構成比	2016年 3月期	構成比	前期比
(資産の部)					
I 流動資産	6,711	64.9%	6,978	61.4%	+4.0%
現金及び預金	3,716	35.9%	3,898	34.3%	+4.9%
受取手形及び売掛金	1,264	12.2%	1,332	11.7%	+5.4%
棚卸資産	1,509	14.6%	1,467	12.9%	-2.8%
II 固定資産	3,628	35.1%	4,393	38.6%	+21.1%
有形固定資産	3,172	30.7%	3,893	34.2%	+22.7%
無形固定資産	143	1.4%	147	1.3%	+3.0%
投資その他の資産	312	3.0%	353	3.1%	+13.0%
資産合計	10,339	100.0%	11,371	100.0%	+10.0%
(負債の部)					
I 流動負債	1,439	13.9%	1,355	11.9%	-5.8%
買掛金	277	2.7%	272	2.4%	-1.7%
II 固定負債	419	4.1%	446	3.9%	+6.4%
負債合計	1,858	18.0%	1,802	15.8%	-3.0%
(純資産の部)					
純資産合計	8,480	82.0%	9,569	84.2%	+12.8%
負債・純資産合計	10,339	100.0%	11,371	100.0%	+10.0%

- 売上高の増加により売上債権が増加したほか、税前利益の増加等から現預金が増加。
- 棚卸資産は減少、製品在庫は若干増加したものの、原材料及び仕掛品の減少が上回った。
- 新工場棟の建設と機械設備導入強化により、有形固定資産が大きく増加。
- 流動負債の減少は、買掛金のほか未払法人税等や未払消費税の減少が主因。
- 有利子負債はゼロ、自己資本比率は若干上昇。



2. 2017年3月期の業績見通し

業績見通し

(百万円)

	2016年3月期 実績	2017年3月期 予想	前期比	コメント
売上高	8,382	8,480	+1.2%	FCVや自動運転等の進展により車関係の需要は期待できる一方、円高の影響等から全般的には伸び悩むと想定。
営業利益	1,914	1,940	+1.3%	売上高に連動して若干の増加を想定。
経常利益	1,954	1,980	+1.3%	同上
当期純利益	1,342	1,350	+0.5%	同上
設備投資額	1,295	706	-45.5%	当期は新工場棟建設で増えたが、今期は通常の設定投資のペースに戻る。
減価償却費	505	635	+25.9%	当期の新工場棟建設や設備投資強化の影響が今期より本格化する。
EPS	214.76円	215.93円	+0.5%	当期純利益に同じ。
1株当り配当金	50円	60円	—	利益は横ばいを見込むものの、大規模な投資を予定していないため増配を予定。

2017年3月期の重点戦略 (前期より継続)

1. 品質重視

- 製品品質はもちろん、営業・開発・管理業務全ての活動における品質向上を図る

2. 工具製造技術の向上

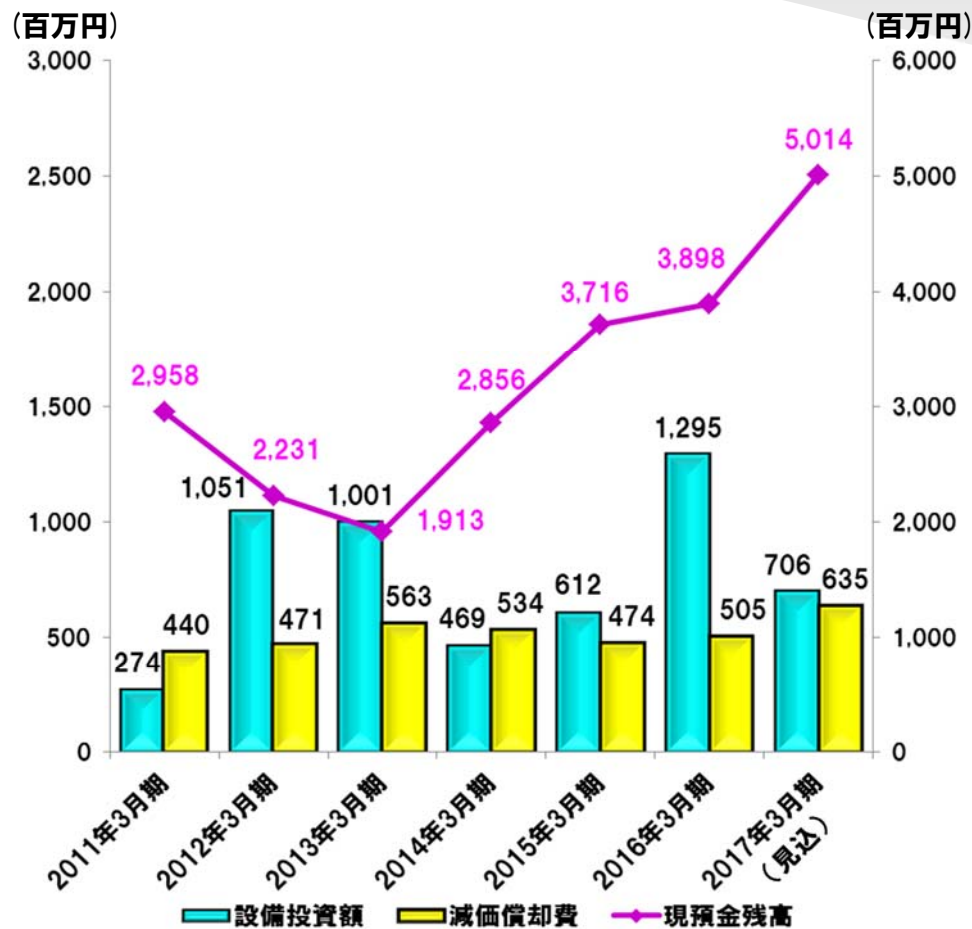
- 自動化、無人化を進め、Made in Japanのものづくりを守る
- Japan品質からNS品質へ、更なる向上を図る

3. 高付加価値製品の拡販

- 当社の強みを伸ばし、差別化を図る

設備投資と減価償却費のトレンド

設備投資、減価償却費及び現預金残高の推移

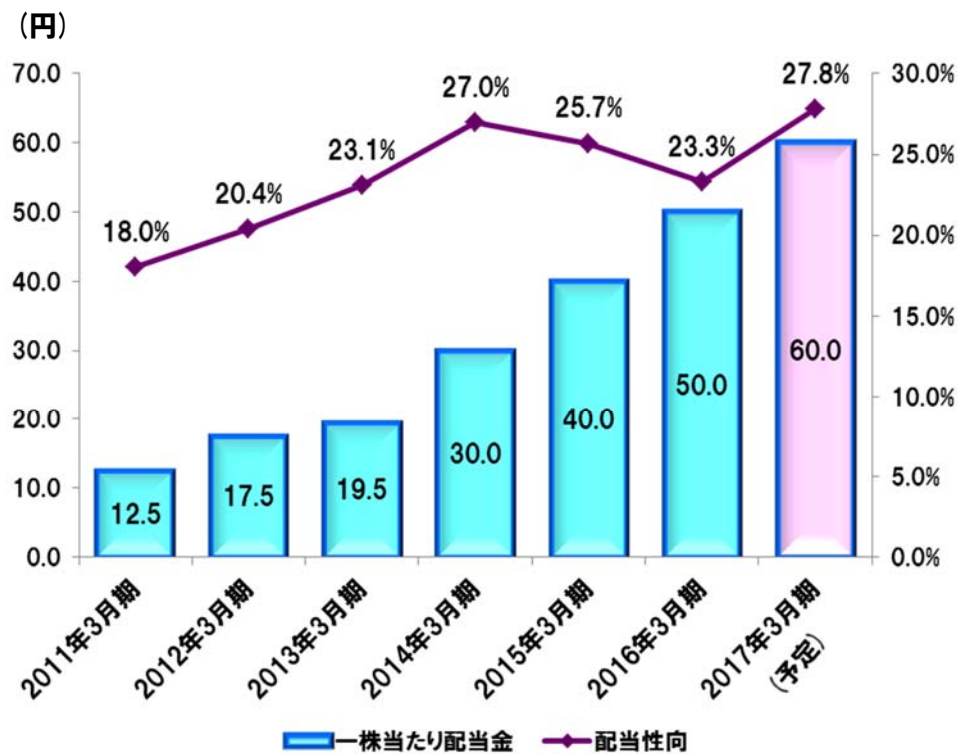


(左軸:設備投資額・減価償却費、右軸:現預金残高)

- 12年3月期
仙台倉庫取得により設備投資額上昇
- 13年3月期
牧野工業白河工場の建設により設備投資額が高水準
- 14年3月期
自動化推進のための設備投資を継続、特殊要因なく設備投資額は減少
- 15年3月期
自動化設備に加え、販売・会計システムの更新費用1.1億円が上乗せ
- 16年3月期
工場増設と機械設備の前倒し導入により年度設備投資額は過去最高
- 17年3月期計画
設備投資は通常範囲だが、当期分が大きかったため減価償却費は上昇

配当について

配当および配当性向の推移



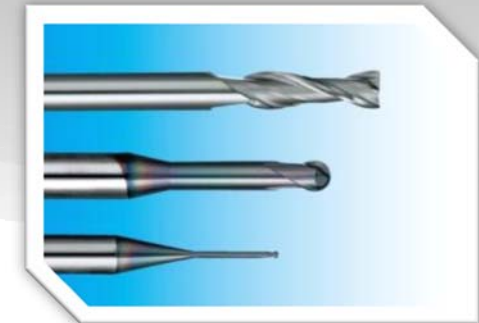
業績に応じた利益還元

- 2016年3月期まで6期連続の増配
- 2017年3月期については、利益は横ばいを見込むものの、大規模な投資を予定していないため、10円増配し1株当たり60円を予定
(業績予想に対する配当性向は27.8%)

3. 日進工具について

日進工具の特長

✓ 精密加工に欠かせない
小径エンドミルのトップメーカー



✓ 独自のニッチ・トップ戦略による堅実な経営



□ 着実な成長を継続⇒無理に売上を追わない（利益重視）

□ 高い収益性を確保⇒高付加価値製品と生産の効率化

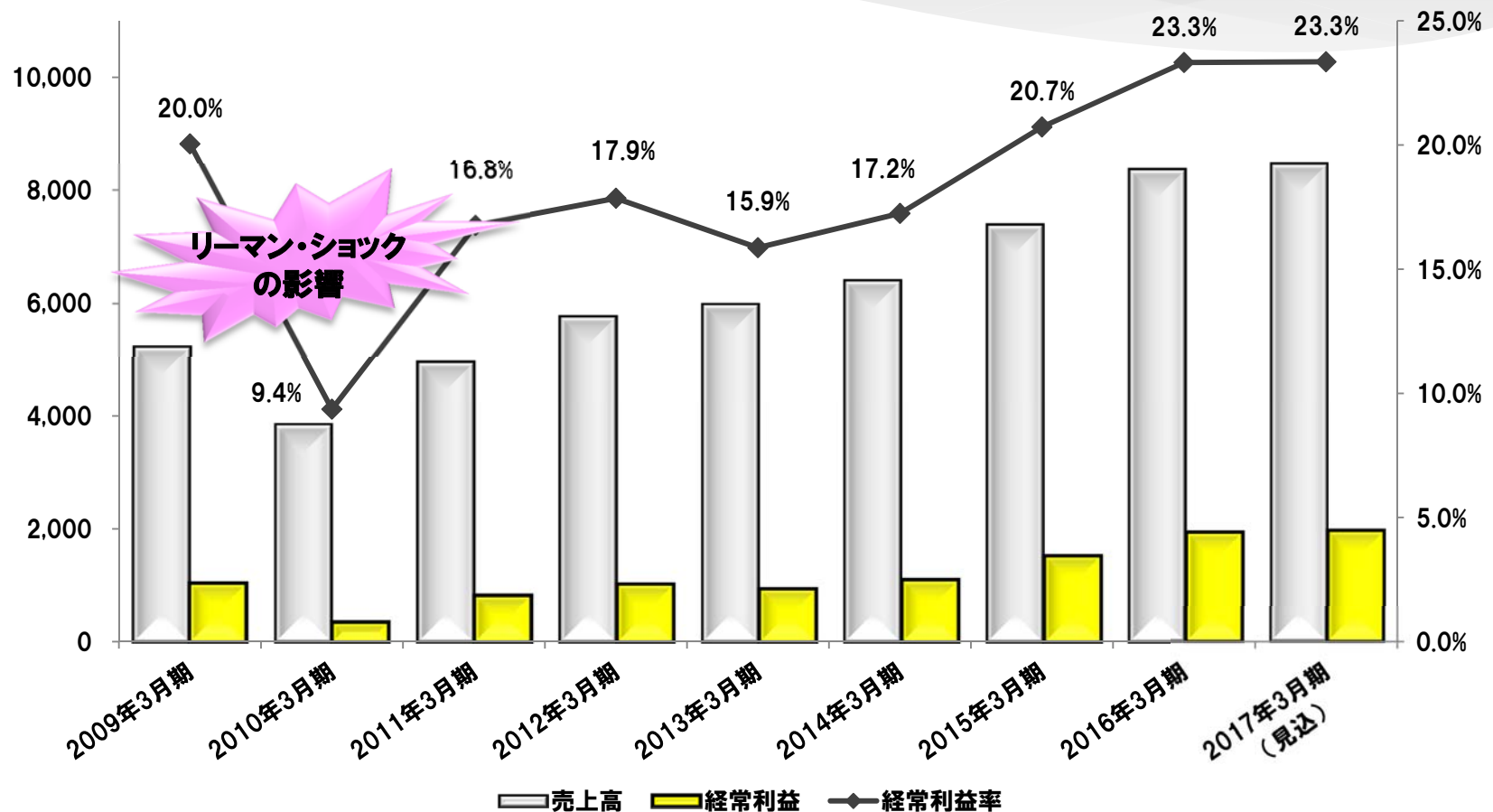
□ 無借金経営の堅持⇒強固な財務基盤

着実な成長と高い利益率

【売上高経常利益率20%を目標とする】

(百万円)

連結経常利益と売上高経常利益率の推移

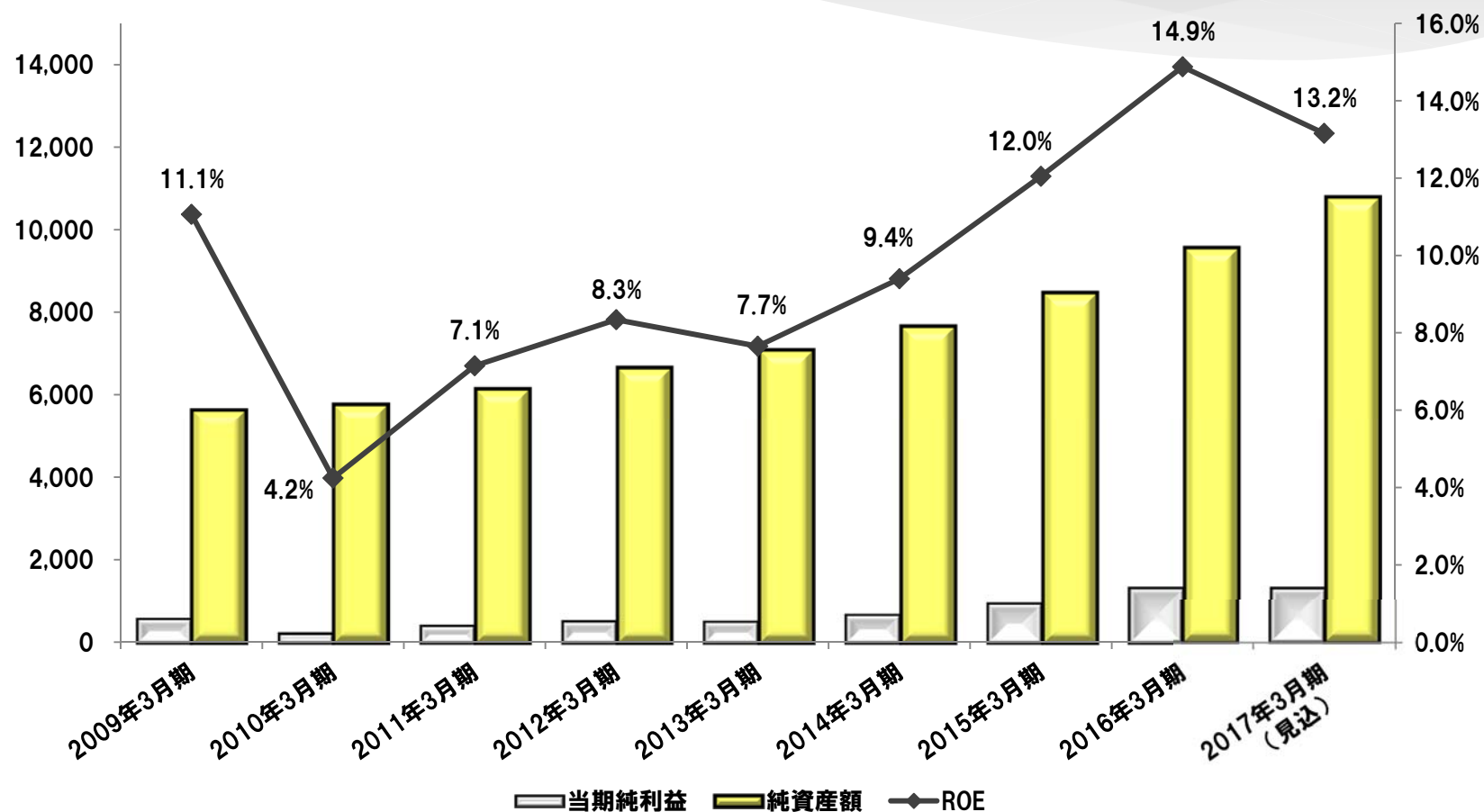


ROEは若干低下の見込

【今期は利益横ばいで低下を予想】

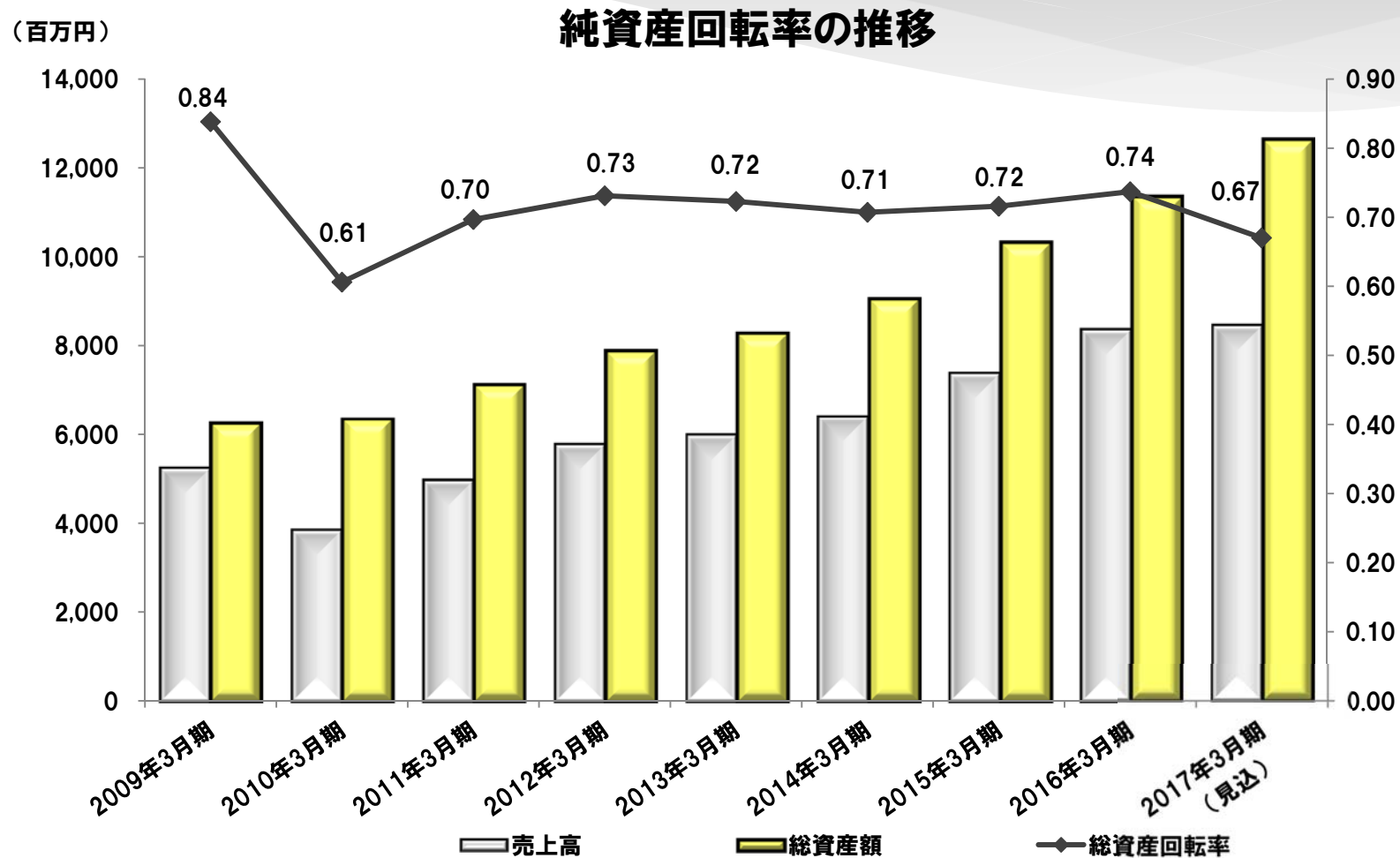
(百万円)

ROEの推移



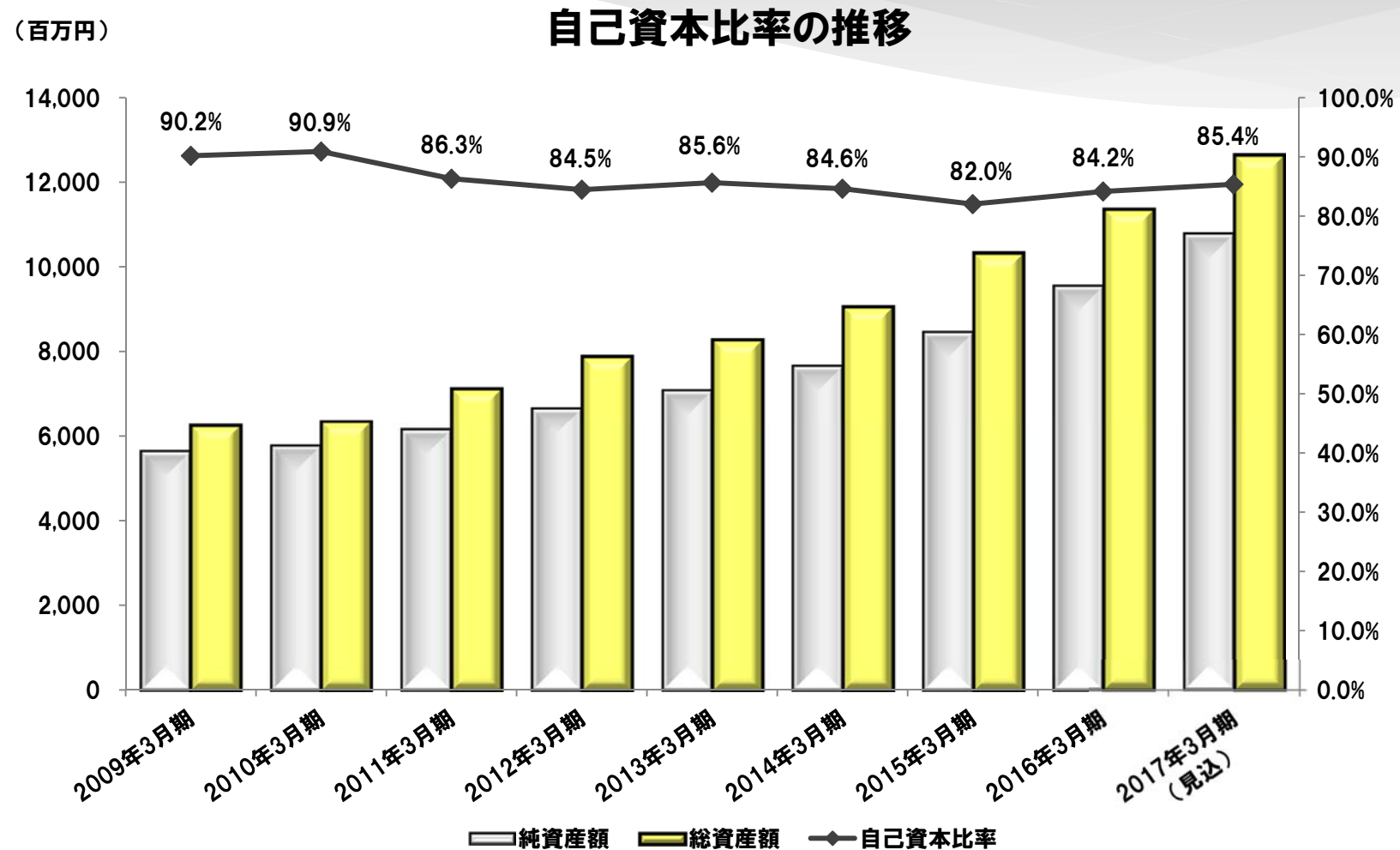
資産効率を横ばいで推移

【今期は売上微増に止まり、若干低下か】



強固な財務基盤

【有利子負債ゼロで高い自己資本比率】



日進工具3つの強み

【超硬小径エンドミル ニッチ・トップ戦略】

Made in Japanで勝負



生産力

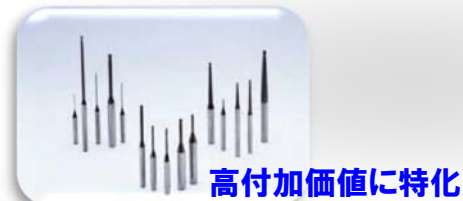
高品質製品を安定的に供給
自社開発機による自動化の推進
他社が追随できない生産性を誇る

開発力

超モノづくり部品大賞等を受賞

高付加価値・次世代製品への取り組み
カギは製品の超微細化と長寿命化

販売力



小径エンドミルではトップクラスのシェア

精密・微細加工を主とした加工技術提案
海外でも急速に認知度がアップ

財務体質

強固な財務基盤と高い収益力

【有利子負債 ゼロ】 【経常利益率 23.3%】 (2016/3期)

当社製品の用途と主な需要業種

【小径エンドミルは先端的な製品の加工に不可欠】

当社製品
(超硬小径エンドミル)



金型加工

部品加工



輸送機械

自動車、バイク、航空機

(トヨタ自動車、デンソー、シマノ 他)

電気機器

家電、PC、AV機器、LED照明、
通信機器 (スマートフォン・タブレット端末)

(パナソニック、東京エレクトロン 他)

その他

精密機器、光学レンズ
医療機器、燃料電池、ほか

(キャノン、ニコン、ブラザー 他)

大手から中小まで5,000社を超えるユーザーに販売

4. 参考資料

企業概要

エンドミルとは

超硬小径エンドミル市場の概況

生産・開発拠点

グループ会社の概要

技術力・経営力

株価推移とバリュエーション

IR情報サイトのご案内

企業概要 |

商号 : 日進工具株式会社

事業内容 : 工作機械に取付けて、金属等の切削加工を行う
超硬エンドミルの専門メーカー

特長 : **精密・微細加工**に使用される小径工具に特化

創業 : 1954年12月

従業員 : 単体190名（グループ合計306名）

連結業績 : 売上高 83.8億円 経常利益 19.5億円
(2016年3月期) (売上高経常利益率 23.3%)

企業概要 II

代表者プロフィール



代表取締役社長 後藤 弘治 (54歳)

1986年 入社
 1995年 専務取締役就任
 2011年 代表取締役副社長就任
 2013年 代表取締役社長就任

社是



明 (明るく)
楽 (楽しく)
創 (創造をしよう)

株式関係

上場市場 : JASDAQ
 株価 : 1,850円 (5/10時点)
 発行済株式数 : 6,252,000株

エンドミルとは



概要・・・工作機械に取り付け、鋼材・ステンレス・アルミなどを削る工具

用途・・・金型や部品などの加工に利用（穴、溝、平面および三次元曲面など）

顧客・・・主に、自動車関連・デジタル家電ならびに電子部品関連企業

超硬小径エンドミル市場の概況

機械工具生産金額 (2015年)
総額 4,623 億円

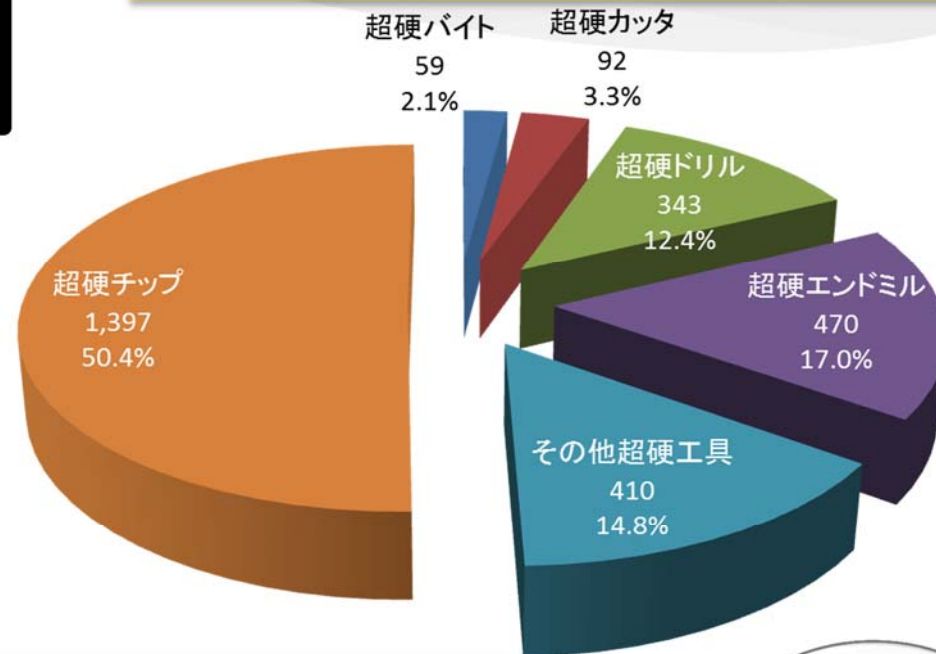
超硬工具 2,770億円 (59.9%)

C(W) BN工具 252億円 (5.5%)

ダイヤモンド工具 704億円 (15.2%)

特殊鋼切削工具 896億円 (19.4%)

超硬工具 2,770億円 (内訳)



出所: 経済産業省「機械統計」

超硬小径エンドミル※における圧倒的な強さを目指す

小径市場は
約170億円

出所: 当社推計

※ 超硬エンドミルのうち刃径6mm以下のもの

生産・開発拠点（仙台北部中核工業団地）

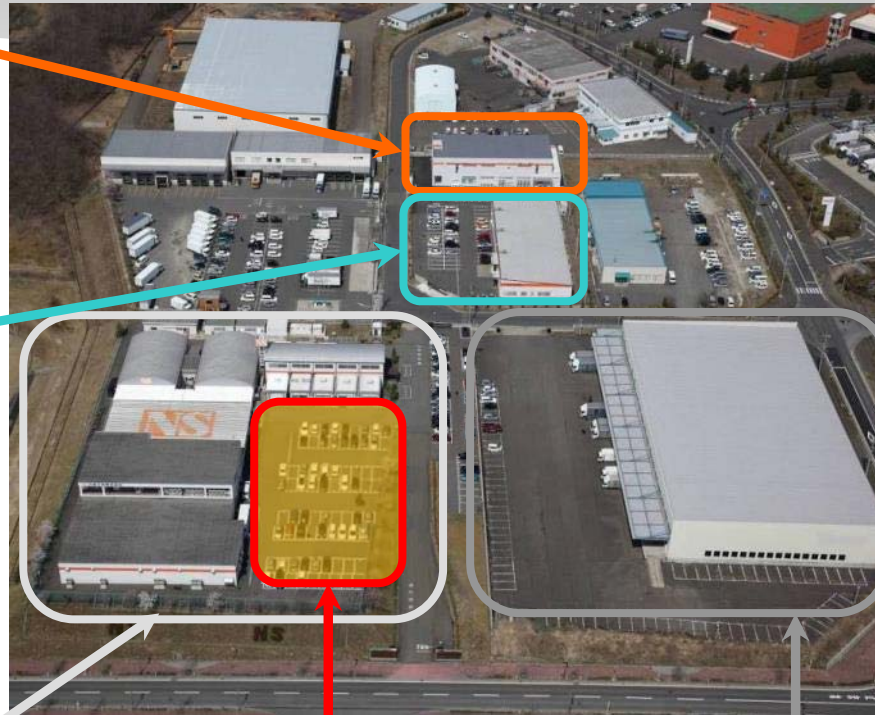
加工センター



開発センター



仙台工場



新工場棟(3月完成済)



土地・建物を
取得済
(現在は賃貸中)

工場内風景



グループ会社の概要

連結子会社

(2016年3月末現在)

株式会社ジーテック

所在地 : 東京都品川区

事業内容: 当社製品の販売



NS TOOL HONG KONG LIMITED (日進工具香港有限公司)

所在地 : 中華人民共和国香港特別行政区

事業内容: 当社製品の販売
(香港・中国)

NS TOOL NS
HONG KONG LIMITED



株式会社牧野工業

所在地 本社: 千葉県松戸市
工場: 福島県白河市

事業内容: 工具ケースを主力とした
プラスチック成形品の製造・販売



株式会社日進エンジニアリング

所在地 : 宮城県黒川郡
大和町

事業内容: コーティング加工、
再研磨



株式会社新潟日進

所在地 : 新潟県魚沼市
事業内容: 超硬エンドミルの
受託加工
(刃径6mm超の製品)



2016年4月1日付で
日進エンジニアリングに吸収合併

技術力・開発力（数々の賞を受賞）

2012年 **超**モノづくり部品大賞【機械部品賞】を受賞

＜受賞製品 硬脆材加工用スクエアエンドミル DCMS＞

2013年 第5回ものづくり日本大賞【東北経済産業局長賞】を受賞

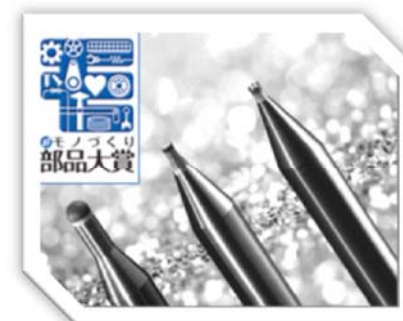
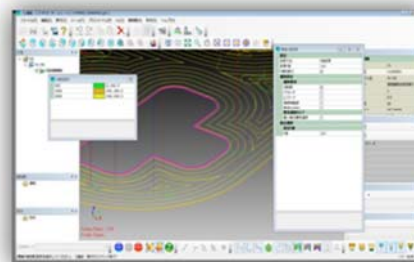
＜受賞製品 硬脆材微細切削加工システムの構築＞

2014年 **超**モノづくり部品大賞【機械部品賞】を受賞

＜受賞製品 PCDエンドミルシリーズ＞

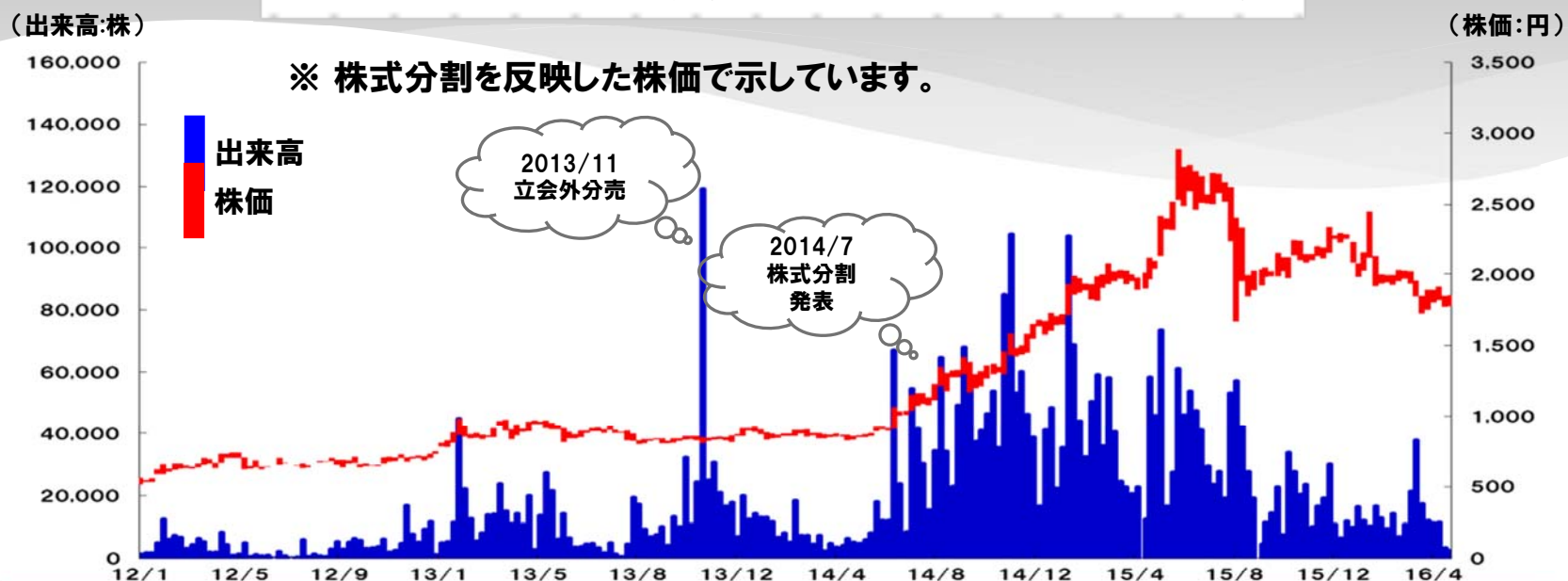
2015年 **超**モノづくり部品大賞【奨励賞】を受賞

＜受賞製品 PCDボールエンドミル PCDRB-UP＞



株価推移とバリュエーション

週足ベース株価推移(2012年1月～2016年5月)



2014年10月1日に1株 ⇒ 2株の株式分割を実施

バリュエーション (2016年5月10日現在)

売買単位	: 100株	単元株価格	: 18万5,000円
時価総額	: 115.6億円	PER (17/3期予想)	: 8.57倍
ROE (16/3期実績)	: 14.9%	PBR (16/3期実績)	: 1.21倍

IR情報サイトのご案内



メニュー表示
 「トップメッセージ」、「よくあるご質問」、「IRお問い合わせ先」
 ⇒メニュー名クリックで各ページに移動します

それ以外はメニューにカーソルを合わせると各メニューの詳細ページ項目が表示されます
 (項目クリックで該当ページに移動できます)

投資家の皆様へ
 投資家の皆様に特にご覧頂きたいページをピックアップしています

IRニュース
 適時開示情報や説明会のお知らせ、レポート更新など最新のIR情報を掲載しています
 「IRニュース一覧へ」をクリックすると、表示されていない過去のIRニュースをご覧いただけます

メニュー項目
 ワンクリックで各メニューの詳細ページに移動できます

URL: <http://www.ns-tool.com/ir/>

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください

お問い合わせ

日進工具株式会社

**執行役員管理部長 田島 寛 / IR担当 今関 弘毅
松尾 友紀子**

TEL : 03-3763-5672

FAX : 03-3764-8225

E-mail : ir@ns-tool.com

**将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。**